

## 第8回 阪南市総合計画審議会

日時：令和3年11月5日（金） 10：00～12：00

場所：阪南市役所3階 全員協議会室

### 基本構想

#### 【中学生アンケート】

- ・中学生アンケートの内容が、施策に活かされている施策はあるか。例えば、外で遊べる場所がないという意見に対しては、店舗駐車場などを使って、限定的に遊べる場所を提供するなどの工夫があってもよいと思う。
- ・中学生アンケートの回答を、今後具体的に検討し、課題の解決に向けて進めてほしい。

#### 【前総合計画の振り返りからみえる課題】

- ・幼児の遊び場として、園庭開放の記載がある。小学校・中学校の子どもについては、遊び場などの居場所が少なくなっていくため、まちなかで開放できる場所を増やすなどの工夫が必要。
- ・健康福祉と教育の分野にまたがる子育て支援と教育については、統一性のある計画にしてほしい。
- ・河川環境の保全が課題。また、山・川・海の環境学習の一環として、子どものポスター絵画コンクールなどを市民協働事業として展開している。男里川などでの体験学習のように子どもがいろいろなものに触れて考えられる遊ぶ場所があるとよいので、今後検討してほしい。

#### 【土地利用の基本方針】

- ・昔は、屋外は路上も海山もすべてが遊び場だったが、危険性への考慮などから、都市公園において遊び場を引き受けてきたという経緯がある。また、遊び方も、外でまとまって遊ぶより、ゲーム等においてコミュニケーションを図るなど、変化してきていると考えられる。
- ・プレイパークについては、自然で遊ぶという視点から、教育だけでなく農水など、部署をまたいだ調整が必要。ただし、場所については、行政に求めるのは難しいと思う。
- ・土地利用計画図は、修正案でよい。観光ルートが、鉄道や徒歩ルートなどを利用して観光連携軸になっていると考えられる。箱作から山中溪への一方向の矢印が気になるので、スカイタウンの部分で双方向的な矢印が望ましいかと思う。
- ・阪南市の認知度が低いため、市の職員から率先して誇りを持ち、もっと認知度を上げる取組を行ってほしい。
- ・土地利用計画図では、他市町をみると、水辺の空間や航路なども含めて考えられるような図でもいいのではないか。
- ・府内でも珍しい自然海岸である福島海岸などは、もう少し具体名を記載していくことも必要ではないか。

### 【基本目標】

- ・自然の中で遊ぶ視点はあるものの、ハイキングコース等に限定されていて、子どもたちが阪南市内で遊ぶ視点がない。プレイパークなどの視点があってもいいのではないか。
- ・持続可能な発展を支える行財政運営について、公務員が ICT 環境に対応していかないといけない。高齢者がタブレット利用を促進するために、市役所でその利用とサポートが行えるか。
- ・行政がデジタル発信などを行うことで、「発信力のある行政経営」などの文言が入るといい。

### 【基本計画】

- ・4-2において、子どもの権利条例や教育上の指導にて、マイノリティ対応は明示しておいた方がよいのではないか。
- ・子どもの権利条例の制定だけだと広まらない可能性があるため、「制定・普及啓蒙」といった文言を入れておいてほしい。
- ・変更点について、見え消し等で変更がわかるように工夫してほしい。
- ・市民委員の意見は担当課へちゃんと伝わっているか。
- ・保護者が正しい知識を得ることが望ましいとあるが、「してあげる」視点が多い。保護者自身が学ぶ機会の取組があってもいいのではないか。
- ・学校教育の充実の中で、保護者自身が学ぶ機会の取組の文言があったらいいのではないか。
- ・総合計画の内容などを市民に対して情報を発信する手法は、工夫をした方がよいと考える。
- ・基本目標5の施策について、他の分野となるべく同じ密度で記載していくことが望ましい。例えば、観光の面などの内容を記載してもよいと思うが、他施策のことを記載するのが難しいのであれば、施策内でももう少し具体名を書き込んでもいいのではないか。

### 【委員長】

- 基本構想、基本計画が、具体の事業のきっかけになっていることについて、2・3の事例を関連箇所とともに明示してほしい。
- 遊び場やプレイパークなどは、市民と行政の協働が重要。
- 都市公園法等に基づくものではなく、まちなかのオープンスペースを利活用するといった視点、小中高生の居場所をつくるなどの支援はできないかといった視点、2点の指摘があった。オープンスペース等を取り扱う部署は、現在存在しないため、それらを含めて庁内で話し合うことが必要。
- 協働共創の施策については、12 年後に向けてどのように進めていくか、施策展開のための人材確保の両輪がどのような姿になっているのかという視点で進めていければと思う。
- まちにプレイヤーがいるにもかかわらず、行政にその情報が伝わっておらず、協働の芽が見えないことも考えられる。まずは、庁内での動きを変えていくことが第一歩として重要かと思う。

- 取組の中で、具体的な内容がある。しっかり実施できる部分については具体的、抽象度が高い部分はあまり積極的な形になっていない。行政が主体でやっていく部分については記載されているが、団体等への協働の視点はほとんど記載されていないことは、今後の課題。